

主な出来事

【内政】

- 13日、ワカム地区の土地は昔からレブ族の所有地だとして企業の住宅建設に反対しているレブ族が、ルネッサンス像の付近において、道路を大きな石等で封鎖し、タイヤを燃やすなどのデモを行った。

【外政】

- 2日、セネガル及び米は、テロの脅威、自然災害、疾患やその他危機事態等の未然防止策として、共同軍事演習の定期的実施に関する二国間協定に調印した。本協定により、安全への脅威に対する両国軍の組織的な演習の実施が可能となる他、安全保障及び防衛分野における両国の協力が強化されることになる。
- 24日、セネガル・ガンビア間の道路において、ガンビアの一方的な交通料の値上げに反対し、国境の道路を封鎖していたセネガルの運送組合は、道路の封鎖を解いた。

【経済】

- アリ・ングイユ・ンジャイ工業・鉱山大臣は、ケドゥグのマコにて、新規金鉱山の開発を開始する旨発表した。同鉱山において、約1.7億米ドルかけて8年間で30トンの金が採掘可能となる見込みである

【内政】

レブ族の土地所有に関する問題

-レブ族は、ワカム地区は昔から自分たちの土地であったと主張し、企業による住宅建設が行われることに反対している。4月30日、本件に関してレブ族が集い、土地の権利に対する弁償として、政府に対して35.9億FCFAを支払うように訴える旨決定した(1日 Populaire)。

-セネガル政府が国際民間空港機関(ICAO)の指示に従い空港を拡大計画に関し、レブ族は、ICAOの指示は、空港の敷地を広げるのではなく、空港の壁を高くすることだと主張している。政府は、昔からレブ族が所有していた土地に空港の壁を立て替えて拡張しようとしており、これに反対するレブ族は、ジャラフ(当館注:ジャラフはレブ族の組織体系の中で外務大臣のような役割をする人物)とダカール州知事の対話を予定している。また、ヨフのレブ族の若者は、本件の状況が変わらなければ、デモを行うことを予定している(3日 Le Quotidien)。

-13日、ワカム地区の土地は昔からレブ族の所有地だとして企業の住宅建設に反対しているレブ族が、ルネッサンス像の付近において、道路を大きな石等で封鎖し、タイヤを燃やすなどのデモを行った。(14-16日 Walfaquotidien)。

【外政】

米・セネガル関係

-2日、セネガル及び米は、テロの脅威、自然災害、疾患やその他危機事態等の未然防止策として、共同軍事演習の定期的実施に関する二国間協定に調印した。本協定により、安全への脅威に対する両国軍の組織的な演習の実施が可能となる他、安全保障及び防衛分野における両国の協力が強化されることになる。同調印式にお

いて、ズムワルト駐セネガル米大使は、セネガルは米にとって西アフリカ諸国の中でも最も重要なパートナーの一つであり、同協定は両国間の協力レベルの高さを反映しており、今後の軍事協力の更なる強化に備えるものである旨述べた(3日 Le Soleil)。(往電第 708 号)

中国・セネガル関係

-6 日、中国・セネガルの二国間レビューが開催され、中国からヤン・ジエチー外交担当国務委員率いる代表团及びセネガルからジョヌ首相等が出席した。同会合において、セネガル政府は、現行のインフラを始めとする中国の支援に感謝し、新たに外務省の改修及びティエス州の子供病院の拡張に対する無償支援の要望を伝えた。なお、中国の対セネガル支援は借款を合わせると 9,000 億 FCFA を超える。また、中国及びセネガルは安保理改革において、意見が一致している(7日 Le Soleil)。

カザフスタン・セネガル関係

-19 日、サル大統領、サル・エネルギー・再生可能エネルギー開発大臣、バ・スポーツ大臣、シィ APIX 総裁及びビンジャイ外務・在外セネガル人大臣は、投資に関する会合に出席するため、カザフスタンのアスタナ訪問した(20日 Le Soleil)。

-19 日、カザフスタンを訪問中のバ・スポーツ大臣は、カザフスタンとセネガルの二国間のスポーツにおける協力を研修及びノウハウの交換等を通じて強化する旨の合意書に署名を行った。20 日、カザフスタンを訪問中のサル大統領は、カザフスタン・ナザルバエフ大統領との会談後の記者会見において、カザフスタンの天然資源管理における知見の共有を求める旨伝え、特に石油開発に関する交渉の専門家の育成を要請した旨報じた(19日、20日 APS)。

ガンビア・セネガル関係

-セネガル・ガンビア間の国境問題に関し、コンデ・ギニア大統領は自らが仲介役となることを申し出ていたが、サル大統領は、本件はジャメ・ガンビア大統領の決定事項であるため、ガンビアが検討するべきである旨を伝え、これを断った(9日 LeQuotidien)。

-24 日、セネガル・ガンビア間の道路において、ガンビアの一方的な交通料の値上げに反対し、国境の道路を封鎖していたセネガルの運送組合は、道路の封鎖を解いた(25日 Le Soleil)。

【経済】

-アリングイユ・ンジャイ工業・鉱山大臣は、ケドゥグのマコにて、新規金鉱山の開発を開始を発表した。同鉱山において、約 1.7 億米ドルかけて 8 年間で 30 トンの金が採掘可能となる見込みである(4日 5日 Observateur)。

-11 日から 13 日にかけて、ルワンダにおいて世界経済フォーラムのアフリカ会議が開催され、サル大統領が出席した。同会議のインフラに関する円卓会合において、サル大統領は、ブレース・ジャーニュー新国際空港は、8 か月以内に開港する旨発言した(13日 APS)。

-21 日、オランダとセネガル政府によって 230 億 FCFA かけて行われたカザマンズ川の拡大整備の竣工式が開催され、ウマル・ゲイ大臣及び駐セネガルオランダ大使が出席した。同大臣は、本プロジェクトは、川幅を拡張し、川底を掘り下げて大型船の通行を可能にするものであり、ジガンシオールを商業ハブにする計画の一部である旨発言した(23 日 Sud Quotidien)。

【その他】

ハブレ元チャド大統領裁判

-30 日、アフリカ特別法廷において、人道に対する罪、戦争犯罪及び拷問罪に問われていたハブレ元チャド大統領事案において、同大統領に対して終身刑の判決が宣告された。また、本年7月 31 日に被害者への損害賠償を決定するための民事裁判が行われる予定(31 日 Le Soleil)。(往電第 812 号)

日・セネガル文化交流

-4 月 30 日、アフリカ高等経営学センター(CESAG)にて、同校の生徒及び青年海外協力隊のコラボレーションによる日本の日イベントが開催された(3 日 Le Soleil)。

-11 日、日本大使館の主催する俳句コンクールに関し、今年は 500 作品以上の応募の中から、5 作品が選ばれ授賞式が開催された。北原大使はスピーチにおいて、セネガルは俳句コンクールが 37 年続いているアフリカで唯一の国であり、セネガルと日本は忍耐や宗教などにおける価値観を共有し、両国は素晴らしい関係を保っている旨発言した(19 日 Walfaquotidien)。

-13 日、日本大使館は、ベルギー首相及び欧州理事会議長を歴任したファン・ロンパイ氏及びペンダ・ンバウ・フランコフォニー担当大統領顧問等を招待し「文化を通じた平和」と題したシンポジウムを開催した(17 日 Le Soleil)。

-18 日、イタリアのローマで開催されたアフリカにおける平和と安全閣僚級会合に、セネガルからンジャイ外務・在外セネガル人大臣が出席した。同大臣は、アフリカの不安定さに関し、危機を解決して平和を維持するためには、新たなアプローチが必要であり、サブサハラ域内で協力し、教育における調和、研修及び雇用に関する課題に応える包括的な取組が必要な旨発言した(19 日 Le Soleil)。

-セネガルを代表する歌手のクンバ・ガウロは、女性と子供の権利保護に対する活動が認められ、国連薬物・犯罪事務所(UNODC)より、同事務所のセネガル公認大使に任命された(13 日 APS)。

(了)